
こちらの私と向こうの私達

楽恋 鈴亜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こちらの私と向こうの私達

【Nコード】

N3540BA

【作者名】

楽恋 鈴亜

【あらすじ】

主人公の楽恋鈴亜は、オタク以外では普通の女子だった。ある日、本屋である本を買った。家に帰りその本を読み終えたあと着替えようと衣装箱を開く。すると、並行世界の私の自室につながっていた。一冊の本で繋がる少女と並行世界のもう一人の自分の物語。

ブローグ 入口は衣装箆

「眠い……」

春休みの日曜日の天気の良い午後になぜ私はこたつで寝ているんだつて？

そりゃあ一晩ずっとネットサーフィンやっていたからに決まってるじゃん

「鈴亜ー！起きなさいー！！」

うるさいな……

「起きてるよーー！！」

お腹すいたし昼ごはんでも食べるか……

「はぁ……春休みだからって勉強もしないんだつたら少しは出かきなさい」

まあそうなんだろうけど

「わかったよ、じゃあ食べ終わったら少し出かける」

（昼食後）

はぁ……めんどくさいなあ……本屋にでも行くのかな

少し寒いな……家に引きこもりっぱなしも問題か……

く帰宅く

「ただいま」

なんか新刊で面白そうなのがあったけど、内容は・・・パラレルワールド系か・・・面白そうだな

く5分後く

「面白かった」

考えられる系だったなあくパラレル系だとやっぱり王道のクローゼットなんだよね・・・

・・・うちの部屋クローゼットがない・・・

「うち・・・ないかあ・・・とりま着替えよーっと」

衣装箆笥を開けば暖かい風が

「え？暖かい風？」

なんか衣装箆笥の奥に空間が見えるんですが・・・

「行ってみようかな・・・」

「え？誰・・・？」

え・・・なんか衣装箆笥くぐったら私と瓜二つに人がいるんだが・・・

・？

「不審者……！！！」

「違う違う！！ってか君誰！？」

「私は楽恋……」

「まさかと思うけど鈴亜……？」

「なんでわかるの……？」

なに？なにこれ？あれですか？まさか

「何言っちゃってるの……？」

一回相手に危険だと思わせないようにしないと……

「ちょっとこっち来て……！」

もう一人の私の腕を引き衣装箆笥の方に引っ張る

「なっ！ちょっと！引っ張らないでよ！」

そして自室のところに出る

「やっぱり……」

「なんで！？どうなってるの？」

NO・i もつひとりの私(前書き)

オタクな「私」

運動好きな「私」

NO・1 もつひとりの私

で・・・

今現在「自分」の方の部屋にいるんだけど、

「でき、なんでこうなったのかな？」

「なにか共通点があるってことでしょ・・・」

そうか・・・あれ？本でつながったってことは・・・

「あれ・・・もしかしたらなんだけど、この本を買ったからつながったんだから・・・」

「まあそうだけど、どうかしたの？」

ってことは・・・

「もしもただけどほかの並行世界の私達もこの本を買っているんじゃない・・・」

「ありえるね・・・」

まじですか。そんなことあるんですか？扉が衣装筆筒だったからほかのところにもある系なのかな？

「あるんじゃない？」

「はぁ・・・」

自室からパソコンを取り出し検索してみる

「君、パソコン使えるんだ!？」

え？

「君も「私」だから使えるんじゃないの？」

驚いたように言う

「全然使えないし興味もないからさ使ってないけど」

あれ? 「私」だからといって性格が同じじゃないのか。
いろんな可能性って意味ではそうなるけど・・・

~~~~~

出てこないか・・・

「やっぱりこんなことは前例にないっぽいね・・・」

「まあ私の世界にもそんなことが起きていないからね・・・」

そう言えばそうだ。いろんな可能性っていうことは、世界が違うパターンもある。

しかし、自分の世界と「私」の世界はほぼ同じな世界・・・

「私、スポーツにしか目がないからさ、こんなことが起きて驚いた

よ！」

「スポーツ……」

私とは違う性格、いやどこかで分岐した最も近い性格……！！  
そうか！どこかで分岐したっていうことは、この世界とは全く違う  
世界があるっていうこと……  
つまり、この異例の事態が起きた理由がわかる世界があるっていう  
ことだ！

「じゃあつまり……」

「どこかにその世界につながる扉があるっていうこと」

「これで、なぜこんなことが起こったのかがわかるのか！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3540ba/>

---

こちらの私と向こうの私達

2012年1月9日05時02分発行